

地質ニュース

昭和46年2月 第198号 1971

解説	1970年秋田県南東部地震	垣見俊弘 衣笠善博	1
トピックス	北海道十勝でナウマンゾウを掘って	佐藤博之 山本村一 木谷津良太郎	20
	爆破地震を利用して地震波の時間的変化をとらえる ～地震予知をめざして ④	飯塚進	28
講座	高温高圧のはなし ⑤	針谷宥	11
	地学環境の遠隔探知 赤外線地学への応用について ③	長谷紘和	42
	層位学～総論 その2～	福田理	48
海外事情	アルプスの地質年代 ① 地質構造と同位体年代	柴田賢	54
	地学と切手	P. Q.	41
	学会掲示板		19

編集 地質調査所

表紙の写真

2億5千万年前の化石堆
(宮城県気仙沼市上八瀬産 ×1.2)

南部および北部北上山地で最も広大な面積を占めて分布するのは古生界の二疊系にほかならない。南部北上山地では二疊系は一般に下位より坂本沢層群 叶倉層群 登米層群に分かれた。明治20年故神保小虎教授による化石発見以来 相ついで故矢部長克教授 早坂一郎教授らの研究により いずれの地層からも特色ある化石が発見され 日本の二疊系区分は著しく進歩した。写真にみられるような化石堆(地層中に遺体化石がはきよせ状に密集して産する場合に用いられる)はとくに叶倉層群の下部の比較的粗粒堅硬な淡緑色塊状砂岩の茶褐色に風化した部分に発見され 気仙沼市周辺では岩手県側の飯森沢付近から県境を越えて宮城県側の新月上八瀬 茂路沢 戸屋沢 表松川 田柄 高屋敷などにわたって分布している。化石堆は二枚貝類 腕足類 巻貝類 頭足類 海百合類 藤虫類 三葉虫などの化石をきわめて豊富に含有し 写真でもその一部をよく識別することができる。日本には珍しい三葉虫も保存が不完全ながら数個体写真に見られる。南部北上山地は何といつても化石の豊庫である。

(文 神戸信和 写真 正井義郎)

発行 株式会社 実業公報社